

2024. **7**
No. **228**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第71回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		4
3	外食		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	夏季ボーナス		10
7	お中元		11
8	夏休みの過ごし方		13
(特別調査) NISA 関連			 14



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.4%、「悪くなった」が30.8%、「変わらない」が59.8%となった。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△21.4。雇用・所得環境が改善しているものの、物価高騰が続く家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感は悪化。
- 家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が1位となり、以下、「収入の伸び悩み」、「税金負担増」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「スマートフォン」が最も多く、以下、「パソコン」、「4K・8Kテレビ」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以上の利用が70.6%で、昨夏（71.9%）と比較すると若干の低下。
- よく利用する店舗は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「ファストフード」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は522万円で、昨夏と比べて40万円増加。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の

順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。

- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は29.3%で、平均借入額は1,046万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「旅行・レジャー」の順。
- 借入先は「銀行（メガバンク・地方銀行）」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。
- 借入先を選択する理由は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が1位で、2位はローン利用者が「審査が通りやすい」、未利用者は「手数料負担が少ない」。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回ったが、両比率の差は昨夏とはほぼ同水準。賃上げの動きが広がっているものの、勤労者のボーナスに対する見方にはあまり変化がみられない。
- 平均手取り予想額は40万2千円で昨夏と比べて2万9千円増加。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 30.8%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 3.0 件で昨夏から増加。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 3,900 円（昨夏 3,875 円）と昨夏より上昇し、平均予算総額も 11,700 円（同 10,850 円）と、昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「お菓子・スイーツ」、「ハム・ソーセージ」、「果物」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「1 泊」が最多となり、平均宿泊日数は 1.9 泊と昨夏（2.0 泊）と比べ若干減少。

（特別調査）NISA 関連

NISA（少額投資非課税制度）の認知、利用状況等について調査を実施。

- NISA の認知状況については、「知っている」が 70.7%、「知らない」が 29.3%。
- 利用状況については、「開設し、投資している」が 42.6%、「開設だけしている」が 10.9%、「開設していない」は 46.5%。
- 開設先の金融機関については、「ネット証券会社」が 60.2%、「大手銀行・信託銀行」が 15.4%、「地方銀行」が 13.6%、「店舗型証券会社」が 9.9%。
- NISA を利用しない理由については、「投資するお金がないから」が最多で、以下、「損をしたくないから」、「制度の内容がよくわからないから」、「投資をするつもりがないから」の順。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 584 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2024 年 5 月下旬から 6 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	103人	17.6%
	30 代	118	20.2
	40 代	181	31.0
	50 代 以 上	182	31.2
家 族	既 婚	339	58.0
	未 婚	245	42.0
性 別	男 性	397	68.0
	女 性	187	32.0
合 計		584	100.0

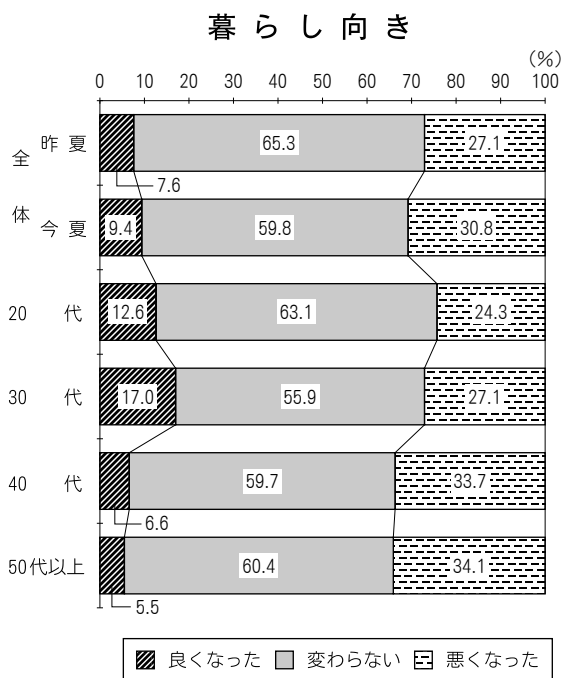
1 家計の状況

生活実感は悪化傾向

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が9.4%、「悪くなった」が30.8%、「変わらない」が59.8%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△21.4となった。

人材の確保・維持に向けた待遇改善や従業員の生活支援などの観点から、企業のボーナス支給見通しが改善傾向にあるほか、賃上げにも前向きな企業が増えている。このように雇用・所得環境が改善するなかで「良くなった」の回答が昨夏と比べて1.8ポイント上昇した。一方で、食料品や光熱費など生活関連の物価高騰が続き、家計の負担感が増していることを反映して「悪くなった」の回答も3.7ポイント上昇しており、全体としてみても、県内勤労者の生活実感は前年よりも悪化した。

年代別にみると、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は20代が△11.7、30代が△10.1、40代が△27.1、50代以上が△28.6となっており、若年層と比較して生活費負担の重い中高年層に、暮らし向きの厳しさが窺われる。

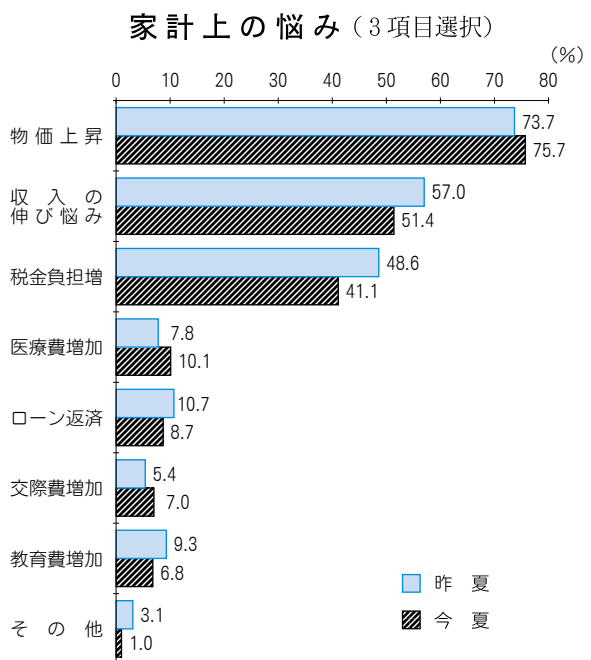


家計上の悩みは「物価上昇」が引き続き1位

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が75.7%と最も多く、以下、「収入の伸び悩み」（51.4%）、「税金負担増」（41.1%）と続いた。

このうち「物価上昇」は、夏の調査としては過去最高水準であった昨夏（73.7%）を2.0ポイント上回った。エネルギーや原材料価格の上昇、円安の進行に伴う輸入コストの上昇を背景に、食料品などの生活必需品は価格が高騰しており、家計への影響が強まっている様子が窺われる。

昨夏と比較すると、比率が上昇した項目は「医療費増加」、「物価上昇」、「交際費増加」であった。一方、比率が低下した項目は「税金負担増」、「収入の伸び悩み」、「教育費増加」、「ローン返済」であった。



2 耐久消費財の購入状況

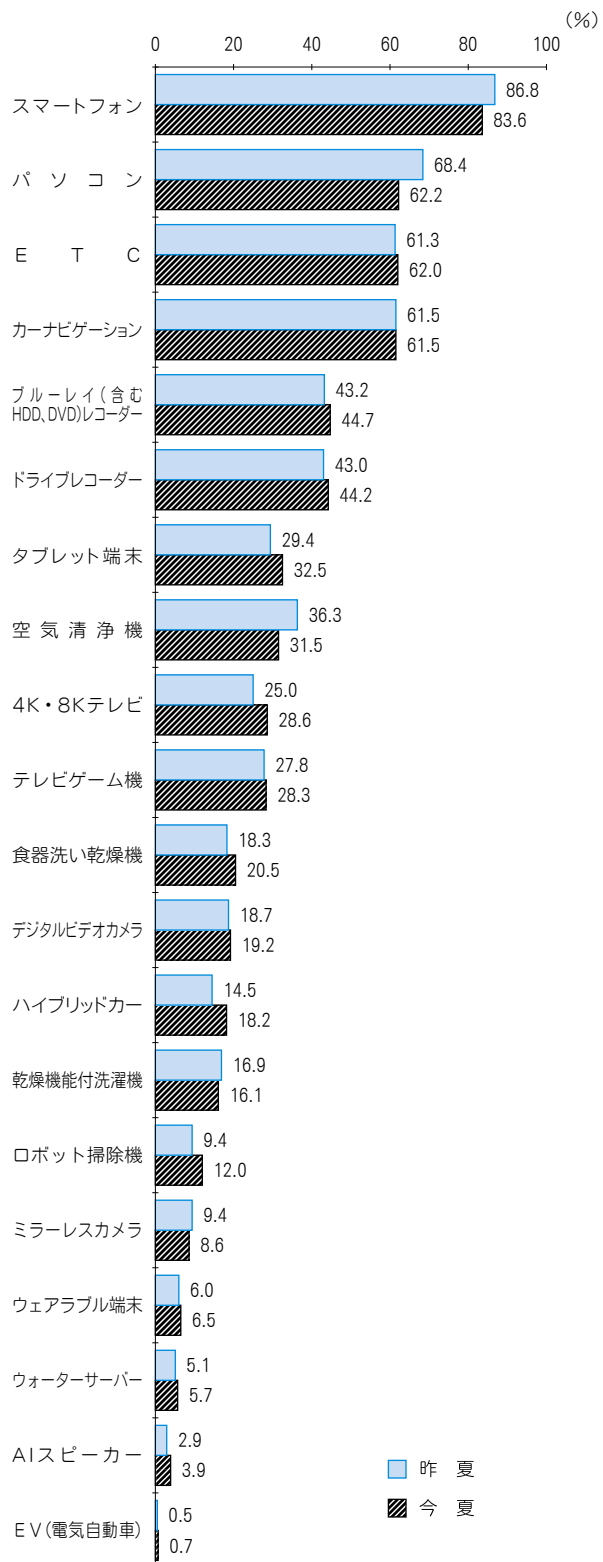
普及率は「スマートフォン」がトップ

耐久消費財のうち、主要家電品など 20 品目についてその普及状況を見ると、「スマートフォン」(83.6%)、「パソコン」(62.2%)、「ETC」(62.0%)、「カーナビゲーション」(61.5%)の順となった。

昨夏と比較すると、「ハイブリッドカー」(昨夏比+3.7 ポイント)、「4K・8K テレビ」(同+3.6 ポイント)、「タブレット端末」(同+3.1 ポイント)、「ロボット掃除機」(同+2.6 ポイント)などの比率が上昇した一方、「パソコン」(同△6.2 ポイント)、「空気清浄機」(同△4.8 ポイント)、「スマートフォン」(同△3.2 ポイント)などの比率は低下した。

年代別の普及率をみると、「スマートフォン」はすべての年代で1位となっており、年代が高くなるに連れて普及率も上昇している。また、「パソコン」も20代が56.3%、30代が46.6%となっている一方、40代は63.5%、50代以上は74.2%となっており、中高年層で高い普及率を示している。なお、「食器洗い乾燥機」、「乾燥機能付洗濯機」は20代の普及率が低位にとどまる一方で、30代以上では一定の普及率となっており、共働き世帯が増加するなかで、時短家電の普及が高まっている様子が窺われる。

耐久消費財の普及状況



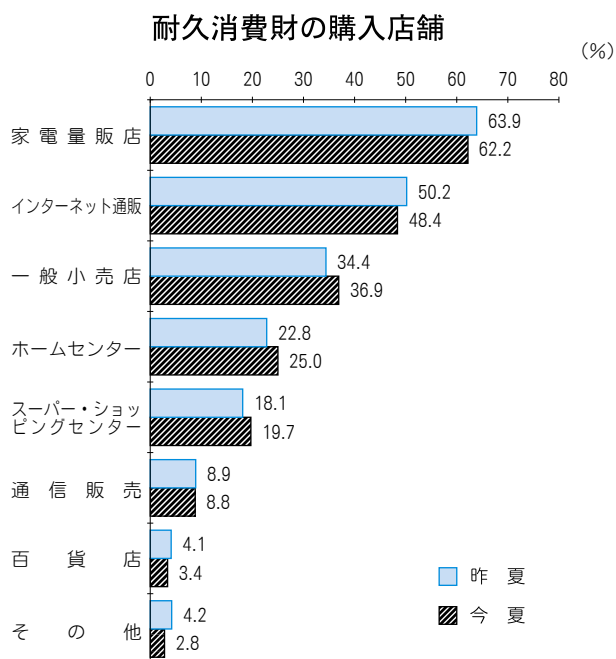
購入店舗は「家電量販店」がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

「家電量販店」（62.2%）の購入比率は、昨夏と比べて1.7ポイント低下したものの、2位の「インターネット通販」（48.4%）を13.8ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている状況が続いている。

一方、2位の「インターネット通販」も昨夏と比べて1.8ポイント低下した。年代別に利用率をみると、20代が43.8%、30代が44.7%、40代が44.9%、50代以上が56.7%と年代が高くなるに連れて利用率も高まっている様子が窺われる。

その他の項目をみると、順位は昨夏と変化がみられないが、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の比率が上昇した一方、「百貨店」、「通信販売」の比率は低下した。

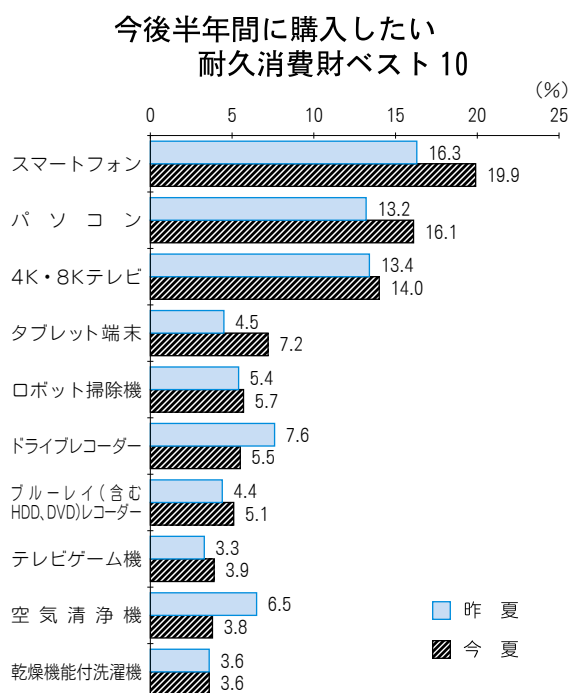


購入希望も「スマートフォン」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「スマートフォン」（19.9%）で、以下、「パソコン」（16.1%）、「4K・8Kテレビ」（14.0%）、「タブレット端末」（7.2%）の順となった。

上位品目の動きをみると、「スマートフォン」は20～40代で1位、50代で2位と各年代から支持を集め、昨夏から3.6ポイント上昇し、引き続き1位となった。また、「パソコン」が昨夏から2.9ポイント上昇し、3位から2位に順位を上げた一方、「4K・8Kテレビ」は昨夏から0.6ポイント上昇したものの、2位から3位に順位を下げた。

上記品目以外の動きをみると、比率が上昇した品目は「タブレット端末」、「ブルーレイレコーダー」、「テレビゲーム機」、「ロボット掃除機」などであった。一方、低下した品目は「空気清浄機」、「ドライブレコーダー」などであった。



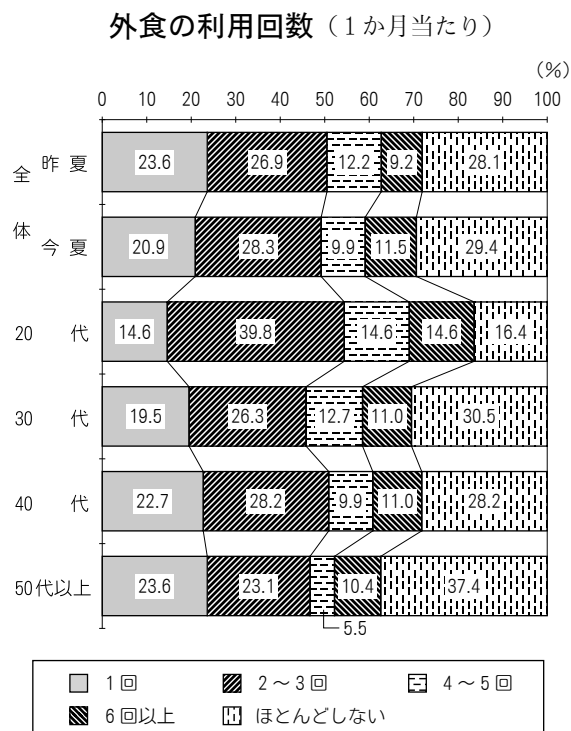
3 外 食

外食の利用状況は「ほとんどしない」が最多

家族での外食の利用状況をみると、全体の70.6％が毎月1回以上利用している。昨夏(71.9％)と比べると若干低下したものの、コロナ禍で落ち込んだ外食需要が着実に回復してきている様子が窺われる。

内訳をみると、「ほとんどしない」が29.4％と最多で、以下、「月2～3回」(28.3％)、「月1回」(20.9％)、「6回以上」(11.5％)、「4～5回」(9.9％)の順となっている。

なお、外食の利用状況を年代別にみると、毎月1回以上利用している割合は20代が83.6％、30代が69.5％、40代が71.8％、50代以上が62.6％となっている。



利用店舗は「ファミリーレストラン」がトップ

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」(51.9％)が最多で、以下、「回転寿司」(38.6％)、「ファストフード」(34.7％)、「中華料理・ラーメン店」(32.0％)、「焼肉店」(15.0％)と続いた。

1位、2位は昨夏と変わらず、昨夏4位の「ファストフード」が3位に順位を上げた一方、3位の「中華料理・ラーメン店」が4位に下がった。また、昨夏7位の「焼肉店」が5位に順位を上げた。

年代別にみると、すべての年代で1位が「ファミリーレストラン」、2位が「回転寿司」となった。3位は20～40代が「ファストフード」で、50代以上は「中華料理・ラーメン店」となった。

よく利用する外食店舗（3項目選択）

	昨夏	今 夏				
		全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	46.5	51.9	62.8	54.9	44.6	50.0
回 転 寿 司	38.5	38.6	36.0	42.7	37.7	38.6
ファストフード	32.3	34.7	33.7	40.2	36.2	29.8
中 華 料 理・ ラ ー メ ン 店	32.5	32.0	23.3	32.9	34.6	35.1
焼 肉 店	13.8	15.0	22.1	15.9	11.5	13.2
和 食 専 門 店	16.2	14.6	12.8	14.6	10.0	21.1
居 酒 屋	16.2	14.6	15.1	9.8	15.4	16.7
洋 食 専 門 店	8.7	10.7	11.6	8.5	8.5	14.0
カ フ ェ	11.8	10.0	22.1	8.5	7.7	4.4
そ の 他	2.4	0.7	0.0	0.0	0.8	1.8

4 貯 蓄

平均貯蓄額は522万円

現在の貯蓄額の平均額は522万円（昨夏482万円）で昨夏と比べて40万円増加した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代が308万円（昨夏比+74万円）、30代が429万円（同△69万円）、40代が509万円（同△17万円）、50代以上が718万円（同+126万円）となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「2,001万円以上」、「101万円～200万円」、「401万円～500万円」、「201万円～300万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が84.6%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「株式」の順となった。昨夏と比較すると、「投資信託」、「国債などの債券」、「株式」の利用率が上昇した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」はすべての年代で8割超となっている。

今後増やしたい金融商品も「銀行預金」が最多

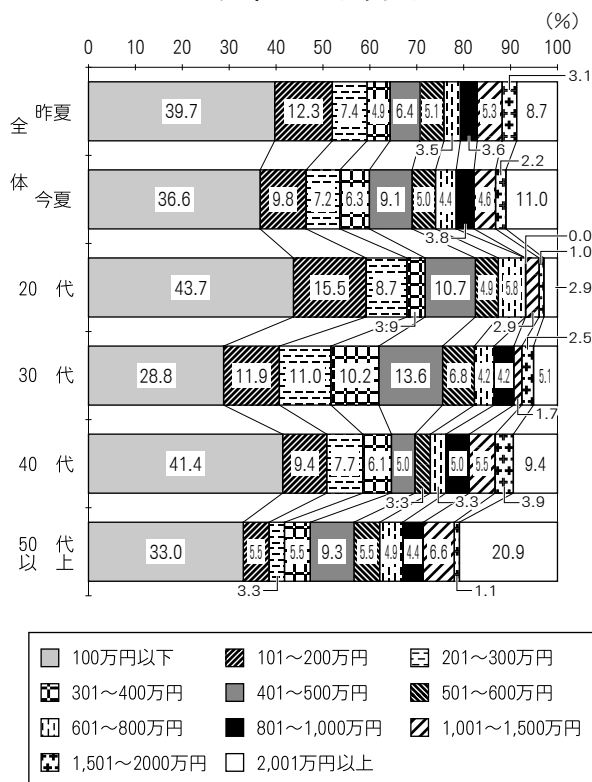
今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、1位と2位は各年代とも「銀行預金」、「投資信託」の順となった。3位は20代と50代以上が「ゆうちょ銀行貯金」、40代が「ゆうちょ銀行貯金」・「株式」（同順位）、30代が「株式」となった。

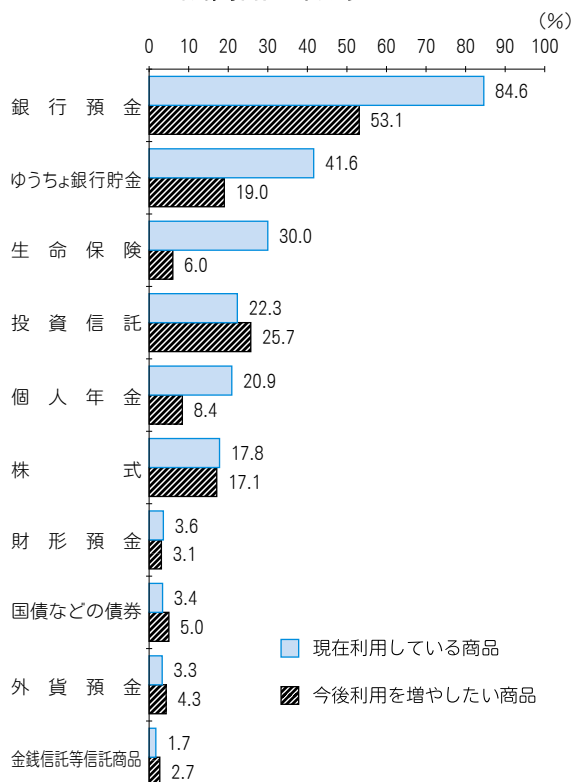
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、20代で「元金の保証があり安心」・「預け入れ引き出しが自由」（同順位）が1位となり、30代以上は1位が「元金の保証があり安心」、2位は「利回りが良い」の順となっている。

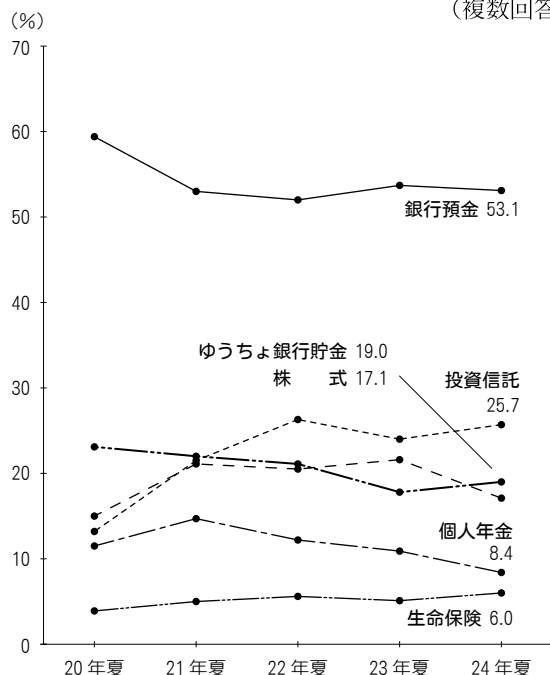
現在の貯蓄額



金融商品の利用（複数回答）



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)
(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	49.3	44.7	44.1	46.4	58.2	1
利回りが良い	40.1	36.9	37.3	45.9	37.9	2
預け入れ引き出しが自由	36.6	44.7	29.7	38.7	34.6	3
値上がり期待できる	24.7	29.1	21.2	24.3	24.7	4
利用金融機関が自宅から近い	12.3	14.6	12.7	12.2	11.0	5
利用金融機関の利便性が高い(新設)	8.0	3.9	7.6	8.8	9.9	—
利用金融機関のサービスが良い	6.5	8.7	6.8	5.5	6.0	6
勤務先が利用金融機関と取引している	3.6	1.0	8.5	3.3	2.2	9
利用金融機関が勤務先から近い	3.1	1.0	5.1	3.3	2.7	7
利用金融機関に友人、知人がいる	1.0	1.9	0.8	1.1	0.5	8
その他	1.5	0.0	0.8	3.9	0.5	—

5 ローン等の利用

平均借入額は1,046万円

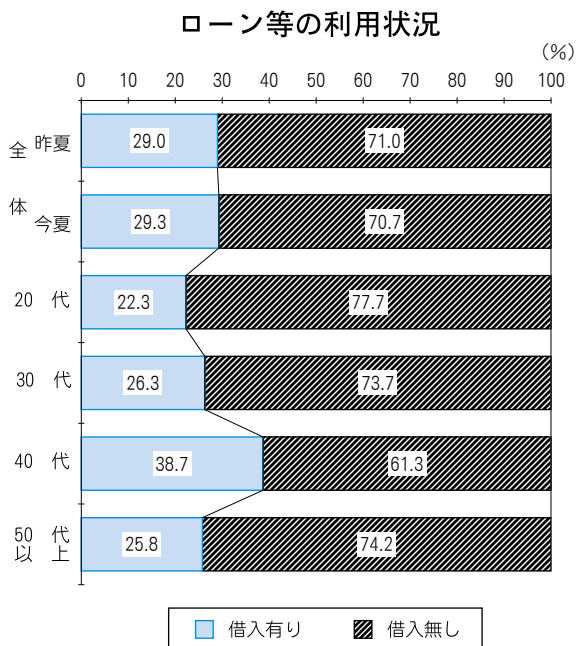
ローン等の利用状況をみると、利用者は29.3%で、平均借入額は1,046万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「旅行・レジャー」と続いた。昨夏と比較すると、「子や孫への教育資金」、「自動車・家電品の購入」の比率が上昇した一方、「教育資金以外の生活資金」、「土地・住宅の購入」、「自分の教育資金」、「旅行・レジャー」は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「ネット銀行」の順となった。昨夏と比較すると、「銀行以外の金融機関」、「銀行(メガバンク・地方銀行)」の比率が上昇した一方、「ネット銀行」、「政府系金融機関」、「勤務先」、「月賦・クレジット会社」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、40代が最も高く、以下、30代、50代以上、20代の順となり、平均借入額は、20代が322万円、30代が1,145万円、40代が1,347万円、50代以上が885万円となった。

利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」が最多となった。なお、借入先はすべての年代で「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最多となった。



「金利の低さ」を重視する傾向

借入先を選択する理由（複数回答）は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が最も多くなった。

ローン利用者の2位以下の順位は、「審査が通りやすい」、「事務手続きが簡単」・「迅速な審査回答」（同順位）と続いた。これらを年代別にみると、すべての年代で1位は「金利の低さ」となり、2位は、20代が「利便性が高い」、30代と50代以上が「審査が通りやすい」、40代が「迅速な審査回答」となっている。

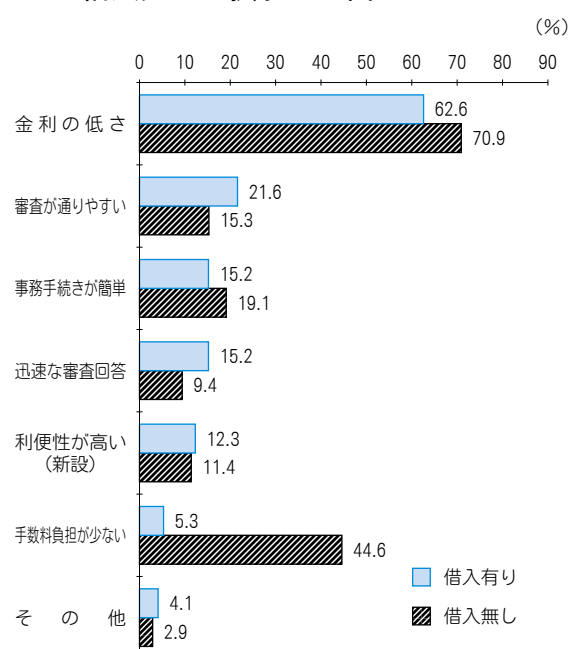
一方、未利用者の2位以下の順位は、「手数料負担が少ない」、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」と続いた。

ローン等の借り入れ先・利用目的（複数回答）

(%)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利 用 目 的	土地・住宅の購入	51.5	17.4	51.6	61.4	53.2
	自動車・家電品の購入	26.3	43.5	29.0	22.9	21.3
	旅行・レジャー	11.1	21.7	9.7	7.1	12.8
	自分の教育資金	9.4	30.4	9.7	2.9	8.5
	子や孫への教育資金	8.8	0.0	6.5	11.4	10.6
	教育資金以外の生活資金	7.0	4.3	9.7	7.1	6.4
	その他	4.7	0.0	6.5	2.9	8.5
借 入 先	銀行（メガバンク・地方銀行）	51.5	34.8	54.8	57.1	48.9
	月賦・クレジット会社	20.5	21.7	25.8	20.0	17.0
	銀行以外の金融機関	17.0	17.4	12.9	14.3	23.4
	ネット銀行	9.4	4.3	9.7	10.0	10.6
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	7.6	0.0	0.0	10.0	12.8
	勤務先	1.2	0.0	0.0	1.4	2.1
	その他	4.7	26.1	3.2	0.0	2.1

借入先を選択する理由（複数回答）



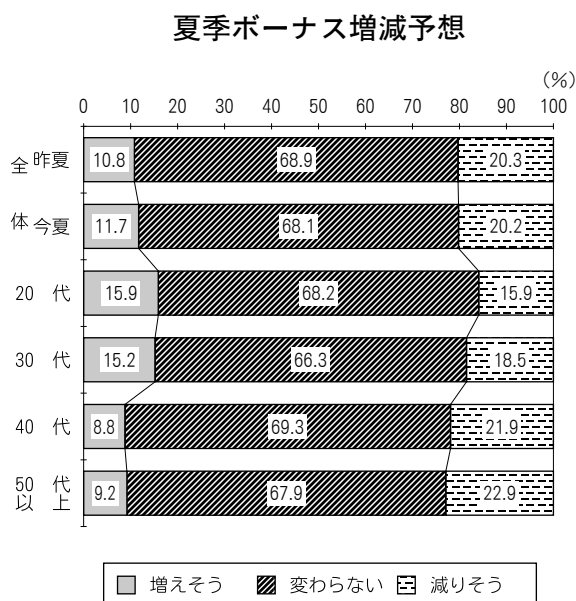
6 夏季ボーナス

手取り予想額は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が11.7%、「減りそう」が20.2%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△8.5と、昨夏の△9.5とほぼ同水準となっている。長引く物価高のもとで家計が厳しい状況のなか、企業が人材の確保・維持や従業員の生活支援の観点から、賃上げを行う動きが広がっているものの、勤労者のボーナスに対する見方には、あまり変化がない様子が窺われる。

なお、年代別にみると、20代で「増えそう」と「減りそう」が同率となっている以外は、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回っている。また、昨夏との比較では、40代以上で「増えそう」の比率が上昇した一方、20代と30代では「増えそう」の比率が低下している。



平均手取り予想額は40万2千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は40万2千円（昨夏37万3千円）で、昨夏と比べて2万9千円の増加となった。

年代別にみると、20代が35万1千円、30代が32万7千円、40代が42万3千円、50代以上が48万1千円となっている。

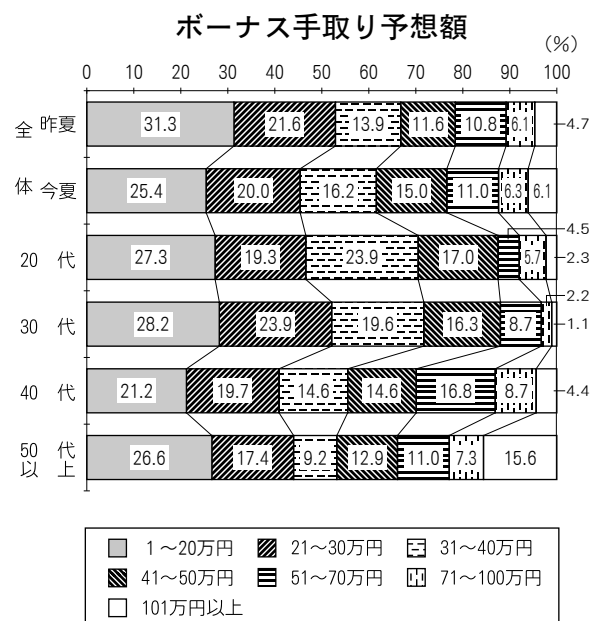
「貯蓄」の優位姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」、「教育費」の順となった。

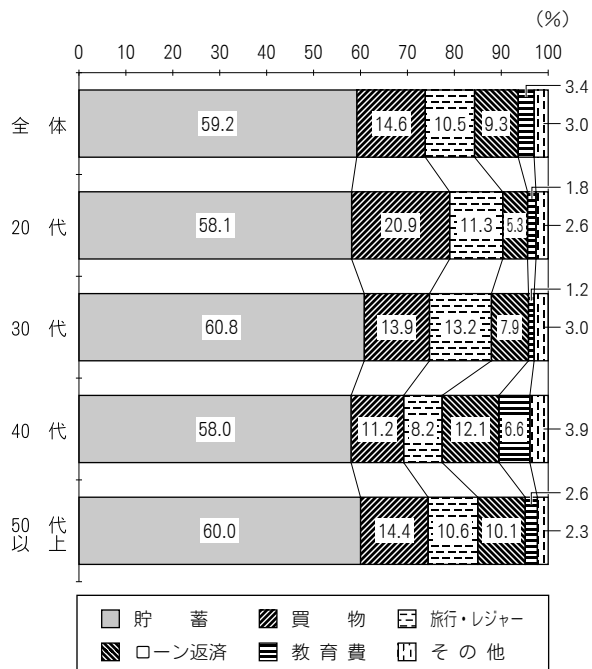
昨夏と比較すると、「旅行・レジャー」、「貯蓄」、「ローン返済」の比率が上昇した一方、「買物」、「教育費」は低下した。なお、「貯蓄」への配分は、依然として6割弱を占めている。

年代別にみると、20代と30代、50代以上は、全体と同じ順位となっている。40代は、1位が全体と同じ「貯蓄」となっているものの、2位以下は、「ローン返済」、「買物」、「旅行・レジャー」の順となっている。

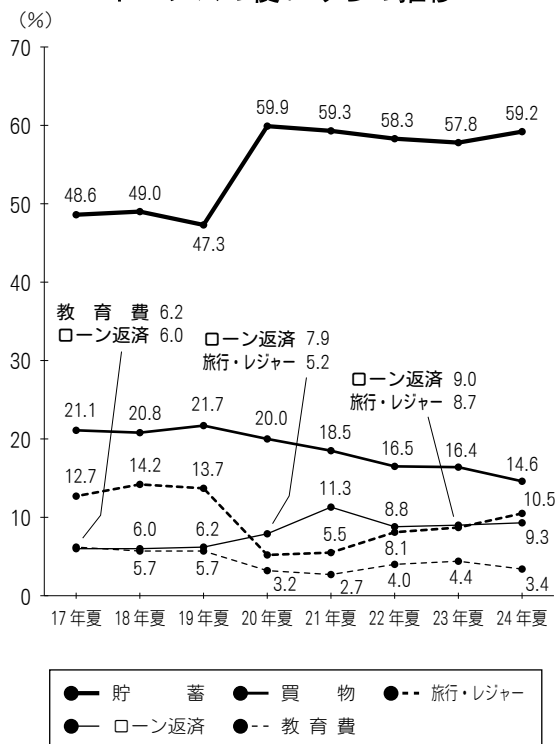
昨夏と比較すると、20代で「貯蓄」の上昇、30代で「旅行・レジャー」の上昇、40代で「買物」の低下、50代以上で「買物」と「旅行・レジャー」の上昇が各々目立っている。



ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

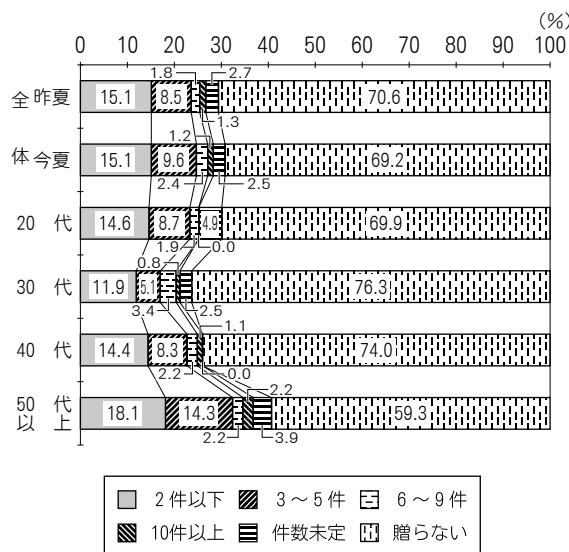
贈る件数は平均 3.0 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 30.8% で、昨夏 (29.4%) と比べて 1.4 ポイント上昇した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「件数未定」、「6～9 件」、「10 件以上」の順となった。平均贈答件数は 3.0 件 (昨夏 2.8 件) で昨夏を上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 30.1% (昨夏比 + 12.8 ポイント)、30 代が 23.7% (同 △ 8.5 ポイント)、40 代が 26.0% (同 △ 1.4 ポイント)、50 代以上が 40.7% (同 + 3.1 ポイント) となった。

お中元を贈る件数



平均単価は 3,900 円、平均予算は 11,700 円

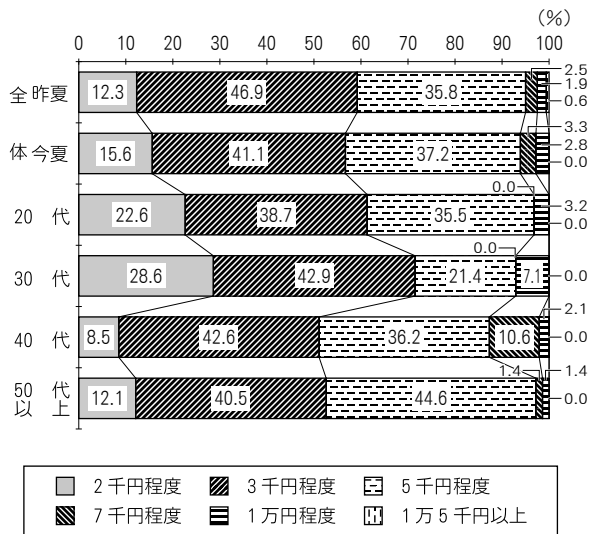
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 41.1% と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 37.2% となっており、この両者で 8 割弱を占めた。

また、平均単価は 3,900 円 (昨夏 3,875 円)、平均予算総額は 11,700 円 (同 10,850 円) となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,577 円、30 代が 3,740 円、40 代が 4,191 円、50 代以上が 3,881 円となっており、平均予算総額は、各々 8,942 円、11,594 円、12,155 円、12,030 円となった。

お中元の相場

(1件当たり平均単価)



贈りたい商品は「ビール」が最多

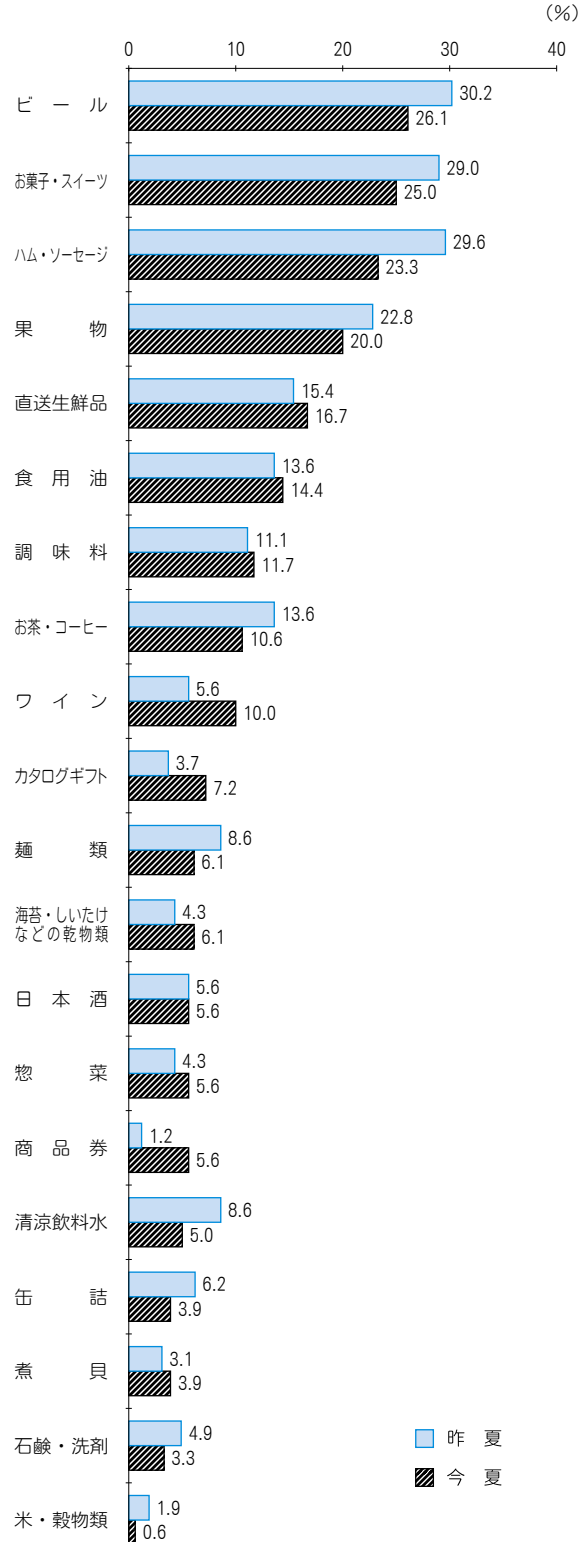
お中元に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「ビール」(含むビール券、以下同じ)が最多で、以下、「お菓子・スイーツ」、「ハム・ソーセージ」、「果物」、「直送生鮮品」の順となった。昨夏と比較すると「ビール」は4.1ポイント低下したものの、引き続き1位となった。また、昨夏3位の「お菓子・スイーツ」(昨夏比△4.0ポイント)が2位に上昇した一方、昨夏2位の「ハム・ソーセージ」(同△6.3ポイント)は3位に後退した。昨夏4位の「果物」(同△2.8ポイント)、5位の「直送生鮮品」(同+1.3ポイント)は順位の変動がなかった。

今夏お中元に贈りたいもののベスト5(年代別)

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	食用油 ハム・ソーセージ	食用油 ハム・ソーセージ お菓子・スイーツ	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2			お菓子・スイーツ	果物
3	ビール (含むビール券)		ハム・ソーセージ 果物	ハム・ソーセージ 直送生鮮品
4	お茶・コーヒー お菓子・スイーツ	カタログギフト		
5		調味料 果物	直送生鮮品	お菓子・スイーツ

お中元に贈りたいもの

(5品目まで選択)



8 夏休みの過ごし方

昨夏の反動や物価高等で外出を控える傾向

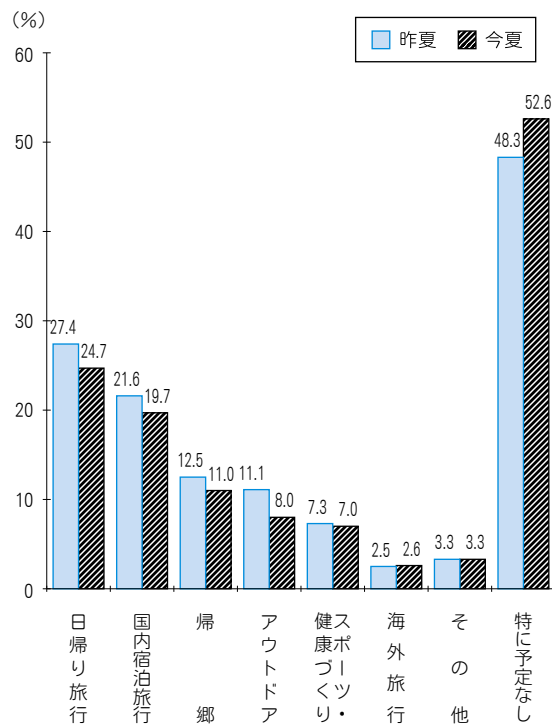
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「特に予定なし」が52.6%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「アウトドア」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」と続いた。

昨夏と比較すると、「特に予定なし」（昨夏比+4.3ポイント）、「海外旅行」（同+0.1ポイント）が上昇した一方、「アウトドア」（同△3.1ポイント）、「日帰り旅行」（同△2.7ポイント）、「国内宿泊旅行」（同△1.9ポイント）、「帰郷」（同△1.5ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同△0.3ポイント）が低下した。昨夏は新型コロナウイルス感染症の5類移行後初の夏休みとなったため、今夏はその反動減がみられたほか、長引く物価高の影響等により消費マインドが低下しており、外出を控える傾向が窺われる。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、20代と40代で1位が「日帰り旅行」、2位が「国内宿泊旅行」、30代は1位が「国内宿泊旅行」、2位が「日帰り旅行」、50代以上は「日帰り旅行」と「国内宿泊旅行」が同率1位となっている。昨夏と比較すると、30代、40代の「日帰り旅行」の低下が目立っている。

「国内旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が46.4%を占め、以下、「2泊」（33.0%）、「3泊」（13.4%）となった。平均宿泊日数は1.9泊（昨夏2.0泊）で、昨夏と比較すると、「1泊」（同+4.9ポイント）の上昇、「2泊」（同△6.0ポイント）の低下が目立っている。

夏休みの過ごし方（複数回答）



夏休みの過ごし方（複数回答）

	全体	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	24.7	32.0	24.6	27.1	18.1
国内宿泊旅行	19.7	22.3	26.3	15.5	18.1
帰郷	11.0	12.6	13.6	10.5	8.8
アウトドア	8.0	8.7	5.9	9.4	7.7
スポーツ・健康づくり	7.0	8.7	5.1	6.6	7.7
海外旅行	2.6	2.9	2.5	2.8	2.2
その他	3.3	1.9	6.8	2.8	2.2
特に予定なし	52.6	47.6	45.8	53.0	59.3

(特別調査) NISA 関連

本調査では、NISA（少額投資非課税制度）の認知、利用状況等について伺った。

NISA の認知度は 7 割

NISA の認知状況については、「知っている」が 70.7%、「知らない」が 29.3%となった。「知っている」は 7 割を超えており、今年からの制度改正や昨今の株式相場の上昇などを背景に、同制度の認知度が高まっている様子が窺われる。

年代別にみると、20 代で「知っている」が 77.7%と最も高く、以下、40 代が 70.2%、50 代以上が 69.8%、30 代が 66.9%となっている。

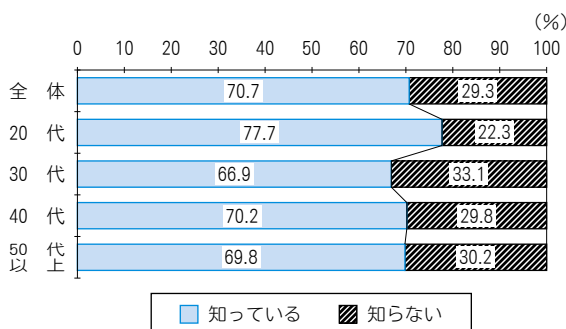
利用状況については、「開設し、投資している」が 42.6%、「開設だけしている」が 10.9%と口座開設している人は半数を超えている。一方、「開設していない」は 46.5%となっている。

開設先の金融機関については、「ネット証券会社」が 60.2%で最多となっており、以下「大手銀行・信託銀行」（15.4%）、「地方銀行」（13.6%）、「店舗型証券会社」（9.9%）の順となった。年代別にみても、すべての年代で「ネット証券会社」が最多となっている。

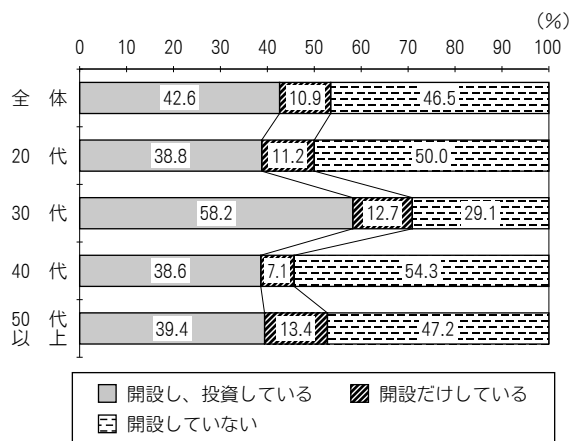
NISA を利用しない理由（複数回答）については、「投資するお金がないから」が 29.5%で最多となった。以下、「損をしたくないから」（28.7%）、「制度の内容がよくわからないから」（28.3%）、「投資をするつもりがないから」（16.0%）の順となっている。

年代別にみると、20 代は「制度の内容がよくわからないから」が最多となっており、30 代は「制度の内容がよくわからないから」・「損をしたくないから」（同率）、40 代は「制度の内容がよくわからないから」・「投資するお金がないから」（同率）、50 代以上は「投資するお金がないから」が最多となっている。

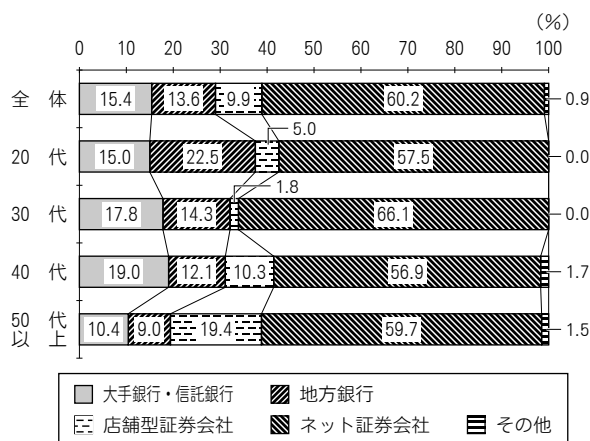
NISA の認知度



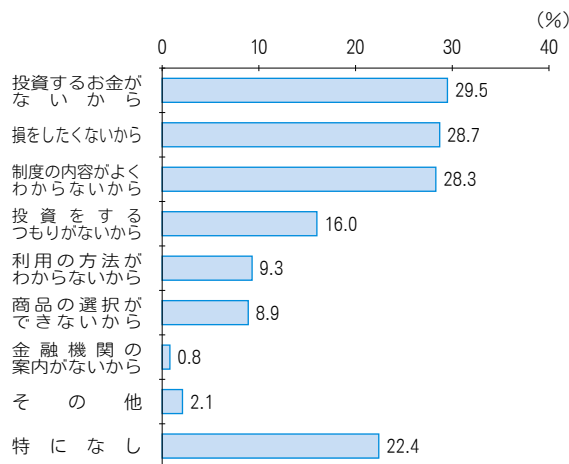
NISA の利用状況



NISA の開設先



NISA を利用しない理由（複数回答）



ご利用
無料



便利を tap! ヌビスキ Bank

山梨中銀アプリ

Yamanashi Chuo Bank

銀行の手続き、アプリでできました。



平野美宇 選手
(木下グループ所属)



SPORTING BEARS
©23 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. 1641417

お金の管理、スマートに!

ダウンロードはコチラ



山梨中銀アプリ

検索



くわしくは山梨中央銀行の窓口
またはフリーダイヤルへどうぞ
(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)



0120-201862



山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>